

楽しいだけじゃない！！キャンプの教育効果 ～キャンプと教育の関係性とは！？～

教育委員会では、小学生を対象に「キャンプ事業」を実施しています。キャンプというと、野外で遊んだり、楽しく食事をするレジャーや娯楽をイメージすると思います。しかし、キャンプは、教育と密接な関係があります。そんなキャンプの教育的効果についてご紹介します。

●アメリカからはじまった「教育キャンプ」

キャンプは娯楽を目的とするものと、参加者の成長を促す活動の一環を目的とする「教育キャンプ」があります。この「教育キャンプ」はアメリカではじまり、学校に通う生徒たちがテントや地面に直接寝る兵士たちの行動に憧れたのがきっかけだと言われています。では、日本ではどのように広がったのでしょうか。

●日本におけるキャンプの役割

日本での教育キャンプは、各自治体等で行われていた林間学校などの行事がはじまりと言われており、共同生活体験の場として徐々に広がっていきました。

近年では、子どもたちの課題として、対人関係が希薄で他世代との交流がないこと、自然体験が不足していること、また、基本的な生活習慣が身に付いていないことによる学習意欲の低下などが挙げられています。そのため、教育キャンプを通じた体験により子ども達の成長を促すことが期待されています。次に、そのキャンプの教育効果について見ていきましょう。

●キャンプの教育効果とは

キャンプでは多くの体験の場があり、こうした体験が高い教育的効果を持つとされています。そのいくつかをここでご紹介します。

1. コミュニケーション能力の向上

食事作りなどの共同作業や仲間との話し合いなどにより能力が向上します。

2. 適応能力の向上

天候の変化などの出来事に向き合い、乗り越えることとなり、これが適応能力となります。

3. 好奇心を育む

日常生活では見たこと聞いたことのないたくさんの体験が新しい発見が好奇心となります。

他にも多くの教育効果があり、こうした教育効果を期待し、教育委員会では「自然体験キャンプ」を実施しております。

●まとめ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、キャンプ場ではガイドラインに沿った対策が行われており、安全に利用できるようになっています。

コロナ禍において、家族で過ごす時間が増えており、遠出をすることも減っていると思います。そこで、近隣のキャンプ場で、日帰りの「デイキャンプ」をやってみるのはいかがでしょうか。「デイキャンプ」であれば、テントや寝具が必要ないため、手軽に行うことができます。

